

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	公益社団法人 上方落語協会
公演団体名	公益社団法人 上方落語協会

内容
<p>上方落語と寄席のお囃子（出囃子・効果音）の解説を行う。</p> <ul style="list-style-type: none">・希望者に高座へ上がってもらい、小唄や扇子や手拭い使ったしぐさを体験してもらう。・高座で太鼓やドラなどの和楽器に触れてもらう。・複数の生徒による大喜利（お題に対し、それぞれが回答する）の体験、あらかじめ体験者にはお題と回答を指導しておき、他の児童・生徒が見ている前で、実演する。 <p>舞台上へ上がる事が難しい場合は その場で仕草の体験をしてもらう。（うどんを啜る、おばけ、やきいもを食べる）</p>

タイムスケジュール（標準）
<p>○上方落語の落語解説 ○寄席のお囃子紹介 ○体験と発表（40分） 落語実演（15分） 休憩（10分） 色物（太神楽、マジックなど）（15分）</p> <p>※本公演に含む場合は本公演進行に準じる 落語実演（20分）</p>

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
<p>6名（出演者4名、コロナ対応スタッフ2名）</p> <p>※本公演とワークショップを同日に開催する場合 出演者6名（落語4名、色物1名、三味線1名）</p>

学校における事前指導

友達同士でおしゃべりをしない

笑うところはしっかり笑う

場合によっては、体験参加者を事前に調整していただき、体験で舞台上がる場合、児童の消毒液へのアレルギー有無の確認と舞台袖での消毒。マスク着用と手指消毒の協力をお願いします。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	公益社団法人 上方落語協会
公演団体名	公益社団法人 上方落語協会

演目
演目「寿限無」・「転失気」・「動物園」・「時うどん」・「七度狐」など 児童・生徒が情景を容易に想像し、楽しめる演目を想定。

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
出演者 5～6名（色物 1～2名含む）、三味線 1名 スタッフ 4～5名

タイムスケジュール（標準）					
到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
10時	10時～12時	13時～14時30分	10分	14時40分～16時	16時30分

実施校への協力依頼人員
舞台搬入までの対応 1～2名 （ステージ上、舞台袖は搬入までになにもないようしておいてください） 当日進行 1～2名（本公演・WS公演共に）

演目解説
「寿限無」子供が主人公のため、子供にもなじみやすい。 「転失気」知ったかぶりで失敗する内容がわかりやすい。 「動物園」設定が奇抜で、動物の仕草をふんだんに盛り込み、見て楽しい。 「時うどん」商売人の様子をイメージしやすく、客とのやり取りが滑稽である。 「七度狐」旅の道中、神の使いである狐に悪さをしたため、バチをあてられるストーリーが分かり易い。上方落語特有のハメモノ（効果音）も入り陽気な演目。 ※本公演では鑑賞者の関心や理解度によって、上記以外の演目を選択する場合があります

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

○小噺、しぐさ、鳴り物の体験

事前に暗記した小噺を舞台上で発表してもらう。落語家の補助のもと扇子・手拭いを使ったしぐさを舞台上で実際に演じる。幽霊の登場シーンを幽霊、太鼓、ドラをそれぞれ生徒・児童が担当し、演じる。

○大喜利の体験

大喜利のお題と回答を児童・生徒に指導しておき、代表者5名が舞台上で発表する。

○「寿限無」早口ことば競争

演目に登場する子供の名前（寿限無…）を暗記しておく。複数名の児童・生徒が舞台上で一斉に発表し、そのスピードを競う。

※上記の内容を中心に、開催校との協議により決定します。

児童生徒とのふれあい

- ・実施校生徒が舞台上で実演する事により、落語を身近に感じてもらう。
- ・演者が解説した「うどんを啜る」、「やきいもを食べる」などの仕草を全員で同じ体験をする事で会場の一体感をつくる。